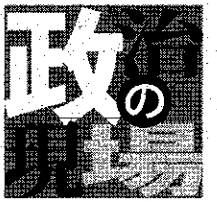


# 「ポスト小泉」への道 ①



交にかける並々ならぬ意気込みを支えるために、一つのチームが極秘裏に動き出した……。

## ◆「その先」まで

6月30日夜、首相官邸から「キ・ミ」足らずの東京全日空ホテルの一室。安倍が「北朝鮮の暴挙は許さない。厳しい対応が必要だ」と北朝鮮の弾道ミサイル発射で緊張が走る中、安倍は首相官邸の要役となり、北朝鮮への制裁路線を主導している。日本人拉致事件への毅然たる対応で、「将来の首相候補」と一躍脚光を浴びた4年前の官房副長官当時を思い起こさせる。

11日からは「首相臨時時代」となり、主要国首脳会議に出席する小泉首相の留守を預かる。

「ポスト小泉」レースの先頭を走っている安倍は、今年1月に地元山口県に里帰りした際、後援者「こんな決意を漏らした。」「外交は内政に通ず」といつ父（故安倍晋太郎・元外相）の言葉を、私も理念にしています」

外交姿勢がしっかりと定まらなければ、内政運営もつまみいかない。安倍の外

念を押しよめるように、安倍は言ったのけた。「過去の戦争前後の日本外交を反省するのはいいが、アジアに自由と民主主義を広げるために日本が積極的役割を果たさなければならぬ」という外務省的な発想は間違いない。

「安倍さんには、独善的な自国中心主義ではない、本道の保守主義の確立を目指している」と見る。靖国神社参拝問題への対応も、この議論を通じて、安倍は参拝するつもりはないが事前に言わないで、8月15日の参拝にはこだわらない。参拝した場合は日本の植民地支配や侵略を強調した「村山談話」を踏襲するようコメントは出さない」という基本方針が整理されつつある。

安倍はこの夜、北朝鮮のミサイル発射への強い警戒感も吐露した。発射5日前のことだ。「テポドンだけじゃない。ノドンも準備している。ミサイルに燃料を注入しておいても発射しなければ、金正日（総書記）の権威は失墜する」

信頼する学者たちに、安倍はこの夜、総裁選の「その先」まで見据えたような一つの注文を出した。「小泉さんの演説は官僚

まかせではないエピソードに力がかかっている。「米百俵」のような血の通った話が印象に残る。これは使える、というエピソードがあれば、どんどん出してほしい」

首相になれば、所信表明演説、施政方針演説、来年夏の参院選遊説……と演説の機会は次々にめぐってくる。出席者の一人は、「我々のチームの中では安倍政権は既定路線。むしろ来年の参院選後の政権運営

# 「ステルス」安倍チーム



をどうするか、という視点に立っているんだ。だからこそ、長期的な政治理念の提示にこだわっている」と明かす。

## ◆扇の要

「学者チーム」の動きは氷山の一角に過ぎない。6月19日夜、同じ東京全

日空ホテルで、今度は、下村、衆院議員の高市早苗（45）、秋生田光一（42）、参院議員の世耕弘成（43）の4人が安倍を囲んだ。森派の中堅若手で、安倍が心を許す「側近チーム」だ。

幕の内弁当をつつきながら、メンバーの一人が作った政策論集をもとに安倍の方針を一つずつ確認し、総裁選に向けた支持拡大戦略を練った。政権獲得後の参院選も見据えて、側近たちは知恵をめぐらす。

「いろいろな政策分野の勉強会を作って、他派閥や当選回数の上の人たちにも加わってもらいましょう。最後は安倍さん自身が電話で頼んでください」

党内のベテラン議員にも気を配り、派閥横断、世代横断の支援者を増やしていけば、安倍の政権基盤は強くなる。安倍は「分かった」とうなずき、約2時間の作戦会議を終えると、人目に付かない出口からホテルを後にした。

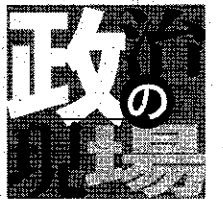
「学術チーム」の動きは氷山の一角に過ぎない。6月19日夜、同じ東京全

9月の自民党総裁選に向けて、政治家たちの動きが活発化している。5年ぶりの政権交代は政界の構図をどう変えるのか。永田町のうめきを追う。

ステルス機 ステルスは英語で「隠密」の意味。ブーメラン状の機体でレーダー電波を受け流したり、電波吸収材を塗布して反射する電波を減らしたりする。ここで、レーダーに探知されにくく、敵地深くに侵入する攻撃が可能となる。米軍にはF22戦闘機などがある。

政治家、学者官僚……。安倍は複数のチームを使って政権獲得の準備を進めている。合わない時も電子メールでやりとりは続く。チーム同士の連携は少ない。ブレインたちと等距離に付き合っているのは、それぞれが「自分が安倍の政策を作っている」と参加意識を持つ。様々なチームが動き、最終的に扇の要の自分に収れんする。そんなスタイルを安倍は意識しているのかも知れない。

世耕は3月、「司令塔はどうしますか。私が裏方をやりましょうか」と持ちかけたが、安倍は「それはまだいい」と制した。安倍は表向き、「官房長官の仕事が最優先だ」と語り、総裁選出馬の正式表明を先送りしている。しかし、実際は、レーダーに映らない「ステルス戦闘機」のように、編隊を組んで「安倍政権」に向けて飛行している。（文中敬称略）



## 「ポスト小泉」への道 ②

古ぼけた革張りのイスが真新しく磨き上げられたのは、2年前のことだった。当時、自民党幹事長だった安倍晋三(51)は、党本部4階にある総裁室の模様替えを指示した。総裁のイスを補修し、デスクセットの背後の壁は書棚に変えた。書棚は、歴代総裁の評伝や回想録、チャールズ元英首相の「第2次大戦回顧録」の原書などで埋め尽くした。

「米国大統領がホワイトハウスの執務室から演説するように、自民党総裁がこの部屋から国民に語りかけられるようにしたい。その時、総裁の後ろに、こうした本が並んでいたら、知的に見えるでしょ」  
 そんな見え見えのイメージ戦略を、安倍は党職員にあっけらかんと語った。  
 安倍は、歴代総裁の写真

を総裁室の壁に飾るようにも指示し、一枚のモノクロ写真を自ら提供した。母方の祖父である元首相・岸信介(第3代総裁)と若き日の父・晋太郎が談笑し、傍らに、祖母の岸夫人のひざの上でかじりまわっている幼子の晋三がいる。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

# 総裁のイス 宿命の挑戦



道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

6月23日、地元・山口県下関市で「安倍晋三先生を総理にする会」の設立準備会が開かれた。後援会長の伊藤昭男(70)は「晋太郎先生の果たし得なかった総理・総裁を目指したい」と声を張り上げた。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

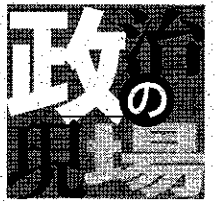
道は予想を超えて早々に開けた。官房副長官の時、北朝鮮の日本人拉致に対する毅然とした姿勢が国民的人気を博し、03年9月、衆院当選3回、49歳で幹事長に抜てきされた。「ポスト小泉」への周囲の期待感は一気に高まり、安倍は「思ったよりスピードが速過ぎる」と戸惑うほどだった。

安倍は、政界の名門出身らしくスマートで、人当たりの良さに定評がある。だが、安倍は時に骨のあるところも見せる。04年参院選で敗北した後は小泉の慰留を振り切った幹事長を辞任し、05年の衆院解散の際も、刺客候補、擁立に慎重論を唱えるなど、小泉の「イエスマン」ではない。

小泉政権時代に不遇だった津島派幹部は「小泉さんは頑固で言うことを聞かなかったが、安倍君は人事や政策で聞く耳を持っているはずだ」と、党内融和路線に期待する。

しかし、安倍にももう一つの顔がある。国家観、歴史観など政治信条に厳しく、相いれない向きへの好悪も激しい。93年に初出馬した当時、政治家を自指す抱負を周囲にこう語っている。

「おれは言いたいことを言うために議員になる。受け入れられな過ぎ、議員パツジを外せばいいんだ」  
 甘く見るのは、禁物かもしれない。  
 (敬称略)



### 「ポスト小泉」への道 ③

府)に転じ、安倍の信頼を得て官房長官秘書官に抜擢された井上には、「自分の人生こそ、再チャレンジそのもの」という思い入れがあった。

◆「ヨイショ」競争  
井上は、小泉政権5年間に生じた日本社会の格差拡大が政治問題化することを懸念していた。小泉改革の継承者と目される安倍にとって、対応を誤ればアキレスけんになりかねない。

「先手を打とう」  
安倍の意を受け、井上は関係省庁幹部と勉強会を始めた。1月に就任した内政担当の官房副長官補・坂倉郎(59)と連携し、06年度予算成立後に安倍の下に各省協議会を設置する段取りを描いた。

1月23日にライブドア社長の堀江貴文が証券取引法違反容疑で逮捕され、「小泉構造改革とは何だったのか」という議論が噴き上がった。小泉改革の「光と影」の評価が入れ替わる潮目にもなった。翌24日の通常国会代表質問では、自民党参院議員会長・青木幹雄や公

「我々が目指す社会は、勝ち組、負け組を固定化する社会ではない。一生懸命頑張る人たちに政治が光を当てていく」  
7日夜、官房長官・安倍晋三(51)が首相官邸で記者会見し、臨時閣議で決定した2006年度の「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」(骨太の方針)を説明した。  
安倍は、自分が推進するフリーターや事業に失敗した人々への支援策、いわゆる「再チャレンジ」政策が「骨太の方針」に盛り込まれたことに胸を張った。その姿を見つめた安倍の政務秘書官・井上義行(43)が9月の自民党総裁選に向け、再チャレンジ政策の取りまとめに動き出したのは、1月中旬だった。

旧国鉄職員からノンキャリアの国家公務員(旧総理

明党代表・神崎武法も「格差」の広がりを憂えた。小泉改革の「影」をどう修正するかが総裁選の争点の一つに浮上してきた。

3月下旬、首相官邸から関係省庁の局長級に対し、安倍を議長とする「再チャレンジ推進会議」への招集がかかった。

「出席者は、役所の肩書ではなく、個人の名前でアイデアを出してほしい」という指示された局長らは人選の意図と会議の趣旨をたがいに理解した。

「閣僚会議にする」と、他の総裁候補が入る。次官では腰が重くてアイデアが出ない。次官レベルの真ん中の局長なら、安倍さん

安倍は、さらに局長らのアイデアを出してほしい。そう指示された局長らは人選の意図と会議の趣旨をたがいに理解した。

「こんな時期に徹夜なんて久しぶりだ。骨太の方針に間に合わせろなんて、安

## 早くも官僚と駆け引き



倍さんの『政治マター』だ。尻をたたいた。3月30日の初会合後、2回目の4月7日まで政策メニューを提出するよう求めた。

「閣僚会議にする」と、他の総裁候補が入る。次官で

「こんな時期に徹夜なんて久しぶりだ。骨太の方針に間に合わせろなんて、安

安倍が官房副長官当時、谷内は官房副長官補として、北朝鮮政策などで連携

「役人はさっさと先例はこうです」と言っ。新しいことをする時に役人を入れるのを引く張られる。自民党幹事長時代の04年に安倍のもとでまとめた党

大―などと、並んだメニューは地味だった。とはいえず、安倍にとって「格差批判への二つの弾よけ」は整った。

安倍が官房副長官当時、谷内は官房副長官補として、北朝鮮政策などで連携した。安倍は「集団的自衛権の政府解釈変更の可能性を検討してほしい」と要請されたことのある。気心は

報告書を作成した衆院議員・堀崎恭久(55)(丹羽・古賀派)は「安倍さんは、政治主導を目指す。それができる立場になれば、実行に移す」と見る。安倍と官僚の駆け引きが早くも始まっている。(敬称略)

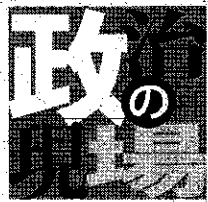
次官レオス 中央省庁のキャリア官僚は通常、同期入省者のうち一人がトップの次官になる。入省35年前後で次官に上りつめる出世争いに敗れた同期生は、年次が上がるにつれてポストが減るため、早期退職する。外郭団体や民間企業への「天下り」の構造的な一因となっている。

安倍が官房副長官当時、谷内は官房副長官補として、北朝鮮政策などで連携した。安倍は「集団的自衛権の政府解釈変更の可能性を検討してほしい」と要請されたことのある。気心は

報告書を作成した衆院議員・堀崎恭久(55)(丹羽・古賀派)は「安倍さんは、政治主導を目指す。それができる立場になれば、実行に移す」と見る。安倍と官僚の駆け引きが早くも始まっている。(敬称略)



# 「ポスト小泉」への道 ④



作戦の成功を祝い、屋敷  
こうな重の出前を頼んだ。

6月6日昼、自民党本部  
2階の経理局長応接室。部  
屋の主で「再チャレンジ支  
援議員連盟」会長の山本有  
二(54)(高村派、衆院当選  
6回)は、3人の議連幹部  
とともに、官房長官・安倍  
晋三(51)の到着を待ってい  
た。

「いやあ、ありがと、  
ありがと。よくあんなに  
集めていただいて……」  
安倍は部屋に入るなり、  
感謝の言葉を連発した。

その4日前、安倍を講師  
にした議連の初会合には、  
二階、谷垣西派を除く党内  
各派などから中堅・若手議  
員94人が集まった。「最低  
でも50人くらいは……」と  
いう期待をはるかに超え、  
安倍も山本らも大きな手応  
えをつかんだ。  
5人はうなづきをバクつき  
ながら、総裁選に向けた議

連の動かし方を検討した。  
「各派閥が所属議員を議  
連から引きはがそうとして  
くるかもしれない」  
「しばらくは、党内の様  
子見だ。議連は動かさない  
方がいいだろう」

◆安倍派はいらない  
安倍は、この議連につい  
て、「総裁選とはかかわり  
なく、政策を中心に集まっ  
ている」と説明する。しか  
し、それは建前で、安倍は  
3月からひそかに議連設立  
の工作に動いていた。

△世論調査の支持率は高  
いが、それで総裁選が決ま  
るわけではない。派閥に関  
係なく、実際に自分のため  
に動いてくれそうな議員は  
どれくらいいるのか、早め  
に確かめておきたい

安倍は、旧知の総務副大  
臣・菅義偉(57)(丹羽・古  
賀派、衆院当選4回)をそ  
のミッション(任務)の責  
任者に選んだ。

集団就職で秋田県から上  
京した菅は、故小此木彦三  
郎・元通産相の秘書を1年  
間務め、横浜市議2期を経  
て衆院議員に転じた。ただ  
き上げだ。銀のさじをく  
わえて生まれてきた安倍と

は対極にいる。安倍が官房  
側にも「車輪を作るよ」  
副長官時代からの付き合い  
で、党で対北朝鮮制裁の法  
整備や党改革を推進し、派  
閥を超えて親しい。200  
3年総裁選で若手候補擁立  
を模索するなど、中堅・若  
手に広い人脈があった。

菅は4月早々、親しい議  
員に耳打ちを始めた。  
「(3月に)安倍さんが  
政府に『再チャレンジ推進  
会議』を作ったでしょ。党  
気がかりな事態が生じてい

た。小泉首相のアジア外交  
を批判する元官房長官・福  
田康夫(60)の支持率がじわ  
じわと上昇してきたのだ。  
世代交代を恐れる派閥領  
袖クラスが合従連衡し、  
福田が神輿に乗れば、手ご  
わい「安倍包囲網」が誕生  
するかもしれない。

「安倍さんは心配だった  
のが、議連の初会合を早く  
やりたかった。それで2週  
間くらい前倒しになった」  
安倍は山本にはこう言っ  
た。議連関係者は、6月17日  
の国会閉幕前後を想定して  
いた初会合が、6月2日に  
繰り上がった理由を、そう  
証言する。

だが、出席議員が少なけ  
れば、福田擁立の機運はく  
さびを打ち込めないどころ  
か、党内の安倍優勢ムード  
がしほみかねなかった。  
「(人数が少ななくても)  
ぜいたくはないですね」  
安倍は山本にはこう言っ  
た。

今月11日夜、東京・南青  
山のレストランに、安倍に  
近い中堅・若手7人が集ま  
り、「総裁選に向けて連携  
していこう」と確認した。  
出席者は、山本、再チャ  
レンジ議連幹事長の菅のほか  
か、衆院議員4回生の下村  
博文(52)(森派)、桜田義  
孝(56)(津島派)、山口泰  
明(57)(同)、塩崎恭久(55)  
(丹羽・古賀派)、参院議  
員2回生の世耕弘成(43)

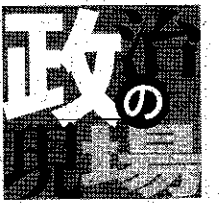
## 派閥横断議連仕掛ける



◆自民党改革 2003年衆院選での自民党不振を  
受け、当時、幹事長だった安倍晋三は、選挙、政治  
資金、広報、団体との関係などの抜本改革に着手した。  
安倍は04年9月に幹事長代理に転じると、自らを本部長  
とする党改革実行本部を創設し、作業を継続した。代表  
的な改革例には、国政選挙候補者選考への公募制導入、政  
策研究機関(シンクタンク)の創設などがある。実行本  
部の実務責任者には、現在、安倍側近となっている塩崎  
恭久、菅義偉、下村博文、世耕弘成や中堅・若手議員が  
起用された。

(森派)だった。会合は下  
村らと菅らの「手打ち」の  
意味合いもあった。  
議連は、今月28日から活  
動を再開し、総裁選の地方  
黨員票獲得を視野に、東京、  
滋賀、大阪、愛知など各地で  
安倍を呼んだ集会を開く。  
こうした議連の活発な活動  
がほかの安倍側近のライブ  
ル心に火を付け、関係がギ  
クシヤクしているのだ。  
一方、ベテラン勢は、派  
閥横断で団結し、力を持と  
うとする中堅・若手の動き  
に、不満を抱いている。  
6月13日夜、森派幹部の  
政調会長・中川秀直(62)  
は、幹事長・武部勤(65)ら  
と会食し、武部から「安倍  
さんは一部の過激な若手に  
乗せられているんじゃない  
か」と苦言を言われた。中  
川は釈明に追われた。  
「いやいや、私も安倍君  
には『若手をあんまりチャ  
ラチャラさせるな』と注意  
しています。彼も自覚して  
ますよ」  
中堅・若手に支えられ、  
派閥横断で動き出した安倍  
の総裁選戦略。安倍は自ら  
の軸足をどこに定めるのだ  
ろうか。(敬称略)

「ポスト小泉」への道 ⑤



元官房長官・福田康夫(69)はあす16日、古希の誕生日を迎える。歩くのも早く、老け込んだ印象はまるでない。父の故福田赳夫が首相に就任したのは、71歳の時である。

自民党総裁選の告示(9月8日)までの2か月を切った。福田出馬への期待感が高まり、「東京が20なら、地元群馬は100」とも評される。福田の東京事務所には、「先生はいつ出馬表明するんですか」と、しびれを切らした地元支持者から電話がかかってくる。

7月1日、福田は地元・高崎市に戻り、昨年6月に日本カヌー連盟会長に就任した自分のために開かれた祝賀会に出席した。テーブルを回る福田は、党員連幹事長の原謙・金子泰造(62)は、「党員連は満を持しています。ただ、ひびきの引き倒しになって

はいけないと自重していません」と声を掛けた。福田は金子の肩をポンとたたき、こう答えた。「大変ありがたい。冷静に、冷静に行こうや」

2004年5月の官房長官辞任後、福田は自らの言動が小泉政権批判と受け取られないよう、用心深く発言を抑制してきたはずだ。しかし、この5月の講演では、日中関係の現状について、こんな刺激的な言葉も飛び出した。「感情的な対立になってしまった。これは最低ですよ、こういう状況は」

靖国神社参拝にこだわる小泉首相に、中国首脳が反発し、日中首脳会談が途絶えた状況が続いている。福田の脳裏には、対立が政府レベルだけでなく、双方の国民まで巻き込んでエスカレートし、やがては修復不能となる事態がちらつく。

福田を知る政界関係者は「福田は、官房長官だった自分には、小泉の下でうまくいかなかった日中外交を何とかする責任がある」と思っている」といふ。

「黙っていたら、今のままでもいいと認めたくはない」と認めたことになってしまふ。福田にそんな思いを強めさせている人物が、もう一人いる。

「彼(安倍)もよく考えなさいいけない。総理と官房長官が(靖国問題や対中外交で)同じことを言っていたらどうしようもない」

倍は事なかれ主義に陥って自国の国益を主張する姿勢を欠いてきたと見る。2人の外交観の違いは、02年10月、北朝鮮から日本人拉致被害者5人が帰国した時にあらわになった。当時、官房副長官だった安倍は5人の日本永住を主張し、いったん北朝鮮に戻すつもりだった官房長官の福田と鋭く対立した。

関係者は、「この時の対立が2人の人間関係の溝を深めた」と証言する。2人には世代間のギャップもある。戦時中に幼少期を送った福田と、戦後生まれの安倍には、18歳の年齢差がある。福田は、若い安倍の言動に、危うさや経験不足を感じる。

福田は相変わらず繰り返していた。だが、外交に関する自分の言動が総裁選に絡んで国民の注目を集めることは、計算の上だった。

今、福田の前には、8月15日に小泉が靖国参拝するかどうか、という問題が横たわっている。福田は「マスコミは大きく報道しすぎだ」と靖国参拝への賛否が争点化されることを嫌う。だが、安倍との対決になれば、争点化は避けられない。党内を二分する論争となり両陣営に深い溝ができる。どちらが勝っても、溝は当分埋められない。日中関係にもプラスにならない。福田は迷っている。

靖国選挙 福田氏の困惑



正しくないなら、来年の通常国会は民主党の攻撃で立ち往生し、参院選も敗北だ。そんな思いを抱きつつ、福田は年明け以降、韓国、中東、米国、インドネシアなどを次々と訪問した。外

限られたチャンス。福田の前には、8月15日に小泉が靖国参拝するかどうか、という問題が横たわっている。福田は「マスコミは大きく報道しすぎだ」と靖国参拝への賛否が争点化されることを嫌う。

森派の大勢は、すでに安倍支持に傾いている。福田が出れば、小泉時代に不遇だった他派閥の支援を受けることになる。小泉の元官房長官だった自分が「反小泉」の象徴に祭り上げられるのはたまらない、という思いが頭をよぎる。

福田家と安倍家 自民党森派(清和政策研究会)の前身に当たる「清和会」は、福田康夫の父・福田赳夫が創設し、2代目会長を安倍晋三の父・安倍晋太郎が務めた。福田赳夫は、安倍晋太郎の義父・岸信介元首相を後ろ盾に政界での地歩を固めた。福田派は岸派の流れをくむため、創業者は福田家だが、源流は安倍家との見方もできる。福田赳夫は岸内閣時代に党政調会長や幹事長、安倍晋太郎は福田内閣時代に官房長官に起用され、それぞれ早くから後継者として育てられた。

「僕が(総裁選に)出るチャンスは、非常に条件が限られている」(敬称略)

# 「ポスト小泉」への道 ⑥



うっとうしい梅雨空が続く永田町。人々の会話は相変わらず、こんな決まり文句で切り上げられる。

「で、福田さんは、自民党総裁選に出るの？」

元官房長官・福田康夫(70)が出馬するかしないかで、総裁選の構図は大きく変わる。今の福田は、出馬を検討するといつ6月末の段階から、その先へ踏み出そうとしない。

北朝鮮の弾道ミサイル発射の余波に揺れる7日、元防衛長官・衛藤征士郎(65)は、衆院議員会館の福田の部屋に足を運んだ。衛藤は、森派の中で福田を熱心に応援する数少ない議員の一人だ。福田の言葉はクールだった。

「国難だよ、国難。こんな時に総裁選の話をしてらばチが当たるよ」

◆8月20日まで  
衛藤は、福田の出馬に確

信がある、と断言する。だが、福田からはっきり「出馬する」と聞いたわけではないらしい。

「僕はあらゆるメディアで『福田は必ず出馬する』と言いつづけている。福田さんが出ないのであれば、僕に『そんなことを言わないでくれ』と言いつづけるはずだ。否定しないのだから出ると言いつづけたよ」

衛藤も、周囲の空気がじれ始めたのは気づいている。最近、党内のベテラン、若手に限らず、「福田さん、も、そろそろ公式に出馬表明した方がいいのではないですか」と言われる。

衛藤は、福田の政策を浸透させるには、今月が必要だと考えている。福田に進言したが、「いやいや、一か月もあれば十分ですよ」とかわされた。

衛藤も、次第に遠慮せざるを得なくなっている。

「彼の哲学だろう。こうなったら(総裁選の)一か月前の(8月20日まで待つ)衛藤と並んで、衆院議員・山本拓(54)(森派)も、福田支持を明言する。妻の高市早苗(45)(森派)は安



## 待つ福田氏、待てぬ周囲

倍速(2.5倍)の側近だが、山本は、安倍の強硬な対中外交には違和感がある。

その山本が福田の真意を計りかねている。

「二人のうち、どちらか考え方が近いかなと言えば、福田さんだ。福田さんが白紙と言っている以上は、白紙。この一か月の流れをみると……。仮に福田さんが出なければ、安倍さんです。他の派閥の人を推す

つもりはない」  
◆「夏眠」だな  
福田に対する期待感も、しる、森派外の「反小泉」勢力に広がっている。

自民党元幹事長の古賀誠(65)は6月7日、党本部を

表敬訪問した中国共産党対外連絡部幹部に、福田への

思いを語った。

「福田先生は立派な政治家だ。最終的には決断して

くれるだろうと、個人的な

願望も含めて思っている」

干からびたチーズ。森前首相は昨年8月、小泉首相を首相公邸に訪ね、衆院解散回避を直談判したが、小泉に拒否された。会談後、森は記者団を前に怒りをあらわにし、小泉がビールのつまみに高級チーズ「ミモレット」を出したことにしても、「つまみには干からびたチーズしかなかった」とまくし立てた。結果的には、この会談を通じて小泉の郵政民営化に対する不転の決意が明確になったため、党内には「森と小泉のパフォーマンス」と見る向きもあった。

古賀には、福田擁立に動員する志の「国立追悼施設を考える会」を結成し、福田をメンバーに加えた。靖国神社参拝の是非が総裁選の争点になると見越し、福田擁立の受け皿の一つとする狙いだった。

「考える会」は6月15日、政府に対し、特定の宗教によらない国立追悼施設の設置に向けた調査開始などを求める中間報告をまとめた。だが、記者会見に顔を

見せた福田は「私は満足です。早く」と素っ気なく述べ、足早に席を立った。

福田の言動に振り回される日々が続く。最近、党内の福田待望論も勢いを失いつつある。しびれを切らした古賀は最近、親しい政界関係者にこう漏らした。

「7月は夏休みだ。冬眠ならぬ、『夏眠』だな」  
眼から覚めるのはいつだろうか。(敬称略)

年の干からびたチーズ以上の芝居じゃないのか」  
自信を深める安倍側近の中には、福田出馬を望む向きすらある。参院議員・世耕弘成(43)(森派)は言う。

「これだけ安倍さんと政策で相違点がある以上、総裁選に出てもらって決着をつけたい方がいい」  
安倍は9月に「ポスト小泉」を射止めても、来年度の参院選で民主党に敗れば、政権運営は一気に厳しくなる。日中間関係も膠着状態が続くかもしれない。その時まで福田の影におびえるより、総裁選でさっさと

かたをつけた方が得策だ、という計算がある。

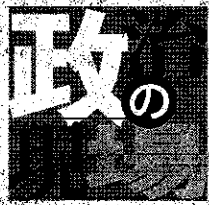
安倍自身も「あれだけ期待されると、福田さんも出ないわけにはいかないんじゃないか」と福田の動向に神経をとがらせている。だが、福田の親族ですら「あの人は家族にも本心を明かさないと首を振る」。

福田は最近、周辺を「う煙に巻いている」。

「7月は夏休みだ。冬眠ならぬ、『夏眠』だな」  
眼から覚めるのはいつだろうか。(敬称略)



# 「ポスト小泉」への道 ⑦



近、森の様子に「ほび」の切迫感はない。

◆稲穂の精神  
森は、以前から、小泉首相(64)が「ポスト小泉」を安倍に任せる気があることを知っていた。

きわどいジョークを織り交ぜた「森節」に会場が沸いた。  
「うちのグループが割れることが割れないとか、色々面白く言われているが、私はあまり痛痒を感じない。私はむしろ気楽に、一番劣勢である麻生太郎(外相)を応援しようか。そんなことも思っている」

自民党森派会長の前首相・森喜朗(69)は4日、都内で開かれた森派事務局長・町村信孝のパーティーであいさつし、総裁選に「接触」し、「これから大変難しい局面、あるいは、ひょっとしたら、楽しい局面になるかもしれない」と続けた。

森派は、総裁選候補として、一番人気の官房長官・安倍晋三(51)、一番人気の元官房長官・福田康夫(40)を抱える。2人がそろって出馬すれば、派閥分裂の危機に直面しかねないが、最

近、森の様子に「ほび」の切迫感はない。  
森は、以前から、小泉首相(64)が「ポスト小泉」を安倍に任せる気があることを知っていた。  
小泉は、2004年9月に安倍が参院選敗北の責任をとって幹事長辞任を申し出た際、即座に安倍を幹事長代理に起用し、党中核に残した。森は当時、安倍を重用する意向を小泉から聞いていた。  
「次の衆院選は(07年7月)衆参同日選になる可能性がある。勝てる総裁が必要だ。それは安倍君だと思っている」  
森は当時「なるほど」と納得した。だが、翌05年9月の衆院選の自民党大勝で衆参同日選の可能性は薄れ、安倍擁立の前提条件は変わった、と思いつめた。  
07年参院選は、01年に小泉チームで大勝した自民党の議席が改選を迎える。安倍の下でも勝てる選挙にはならない。参院選で敗北すれば、他派閥が倒閣運動に走り、安倍政権が短命に終わる危険がある。



## 「次も総裁派閥」森氏執念

森の耳には、森、小泉に「次も総裁派閥」が3代連続することに対する他派閥の怨嗟の音が聞こえていた。ベテラン議員は、安倍の下で世代交代が進むことに警戒感を抱いていた。かつての田中派全盛期に非主流派の辛酸をなめた森は、せつなくつかんだ主流派の座を手放したくはなかった。

森は「情報戦」を仕掛けた。昨年未だ講演などで「安倍温存論」を唱え、「春以降は「福田さんも総裁選に意欲がある」との見方をちらつかせた。森派所屬議員には「『実のほど』うぶを垂れる稲穂かな」の

謙虚な精神で自分の間は静観しろ」とクギを刺した。安倍側近は「森さんの本心は福田擁立ではないか」と疑念を募らせた。

一方、小泉は、昨年未だから「総裁選最大の権力闘争」と公言し、安倍支持を色濃くこじまっていた。党内のパワーバランスに乗って総裁派閥の座を維持しようとする森と、権力は自ら戦って勝ち取るものだ

主流派 自民党は、総裁を輩出した「総裁派閥」で総裁選でそれを協力した派閥が中心となり主流派を形成してきた。主流派には政府や党の重要ポストが割り振られ、政権に強い影響力を持つてきた。1970年代は田中派・大平派が連携し、森前首相が所属した福田派はこれを激しく対立。福田政権(76-78年)は短命に終わり、福田派は80年代中盤まで反主流、非主流派に甘んじた。竹下政権以降は主流派の一角にどまり、00年の森政権誕生で四半世紀ぶりに「総裁派閥」に返り咲いた。

と考える小泉。小泉政権も、薄らぎはじめ、森派も安倍年の政権運営でたびたび表面化して二人の政局観の違いが、またしても浮き上がった局面だった。  
森は、小泉が安倍をけし

「私が派内で福田さんに軸足を置かざるを得ない事情も分かってくれ」  
福田の体面を守りつつ、安倍支援の態勢づくりもひそかに考えていくというメッセージ、と安倍周辺は受け止めた。  
小泉との距離も縮めていった。森は6月15日夜、東京・紀尾井町の赤坂プリンスホテルの客室で、小泉と1時間余り話し込んだ。安倍政権を念頭に、幹事長人事が話題に上ったとき、森が話に上った、とき、森は「森氏は来年の参院選を意図し、第2派閥・津島何のメリットもない。みんな分かってるよ」

一時は「顔を出さない」と言及された安倍も、「森さんが僕のことを心配してくれているようになった」と少しほっとしている。  
この先、福田が総裁選出馬を見送れば、森派は安倍選対の中核として気兼ねなく動くことができる。  
安倍支持で派内一本化を模索している同派幹部はあけすけに語る。

「総裁を出し、政府・与党を牛耳り、重要閣僚を占めれば、選挙で所属議員のてこ入れもできる。総裁派閥はいいものだ。割れたら何のメリットもない。みんな分かってるよ」

派の額面防衛長官の幹事長起用を望んでいる、と首相に伝えたのではないかと見る向きもある。  
森は最近、安倍本人にも「幹事長(人事)は大事故だ。よく考えた方がいい」などと忠告している。参院選後の政局をにらんで他派閥の協力も取り付けて総裁選に勝ち、人事面で善党態勢を敷くほうがいい。森の視線も「安倍政権」に向き始めた。  
「一時は「顔を出さない」と言及された安倍も、「森さんが僕のことを心配してくれているようになった」と少しほっとしている。  
この先、福田が総裁選出馬を見送れば、森派は安倍選対の中核として気兼ねなく動くことができる。  
安倍支持で派内一本化を模索している同派幹部はあけすけに語る。

(敬称略)

# 「ポスト小泉」への道 8



「今回は、実のある結果を得た」と言っているらしい。

外相・麻生太郎(65)は18日、自分のホームページに掲載する日記にそう書いた。国連安全保障理事会で対北朝鮮決議が全会一致で採択されたことへの自費の弁である。

15日の決議採択に至るまで、麻生は、官房長官・安倍晋三(51)と携帯電話やメールで頻りに連絡を取り合っていた。「タフな外交交渉」を指揮した。安倍も周囲「外相が麻生さんでよかった」と漏らした。

だが、世間の注目は、従来北朝鮮への強硬姿勢を売り物にしてきた安倍にはかり集まる。「ポスト小泉」の総裁選レースという観点では、麻生は(ほぼ)の得点は稼げなかった。

◆5年越しの夢  
この3月、麻生は同じ河

野派の衆院議員・松本純(56)と、9月の自民党総裁選に向けたスケジュールをひそかに立てた。

4~5月は知名度アップのためにテレビにたくさん出る。6月は情報発信力を高めるために記者会見の中身を充実させる。国会開幕後の7月は外交日程で存在感をアピール。公務が一段落する8月に政権構想を発表する……

そして、手の内は容易に明かさない。国会開幕前の6月16日、記者会見で政権構想の発表時期や内容を聞かれても、いつもの皮肉交じりの口調で煙に巻いた。

「ボールを投げる前に内角高めのストレートを投げます」といってピッチャーはいるのかねえ……

だが、麻生の意気込みは、並々ならぬものがある。この夜、東京・虎ノ門のホテルオークラで開かれた河野派の打ち上げ会では、麻生にしては珍しく直截な言葉で同志に協力を求めた。

「2001年の総裁選で勝負して以来、小泉政権を支えてきたが、いよいよ5年越しの夢を実現したい。



## 麻生氏狙いは「存在感」

01年自民党総裁選 森首相の任期途中の退陣を受けて4月に実施された。小泉純一郎(元首相)、橋本竜太郎(元首相)、麻生太郎(経済財政相)、亀井静香(政調会長)の4氏が立候補。都道府県連が独自に実施した予備選で、「脱派閥」を訴えた小泉が41都道府県で1位になった。国会議員と都道府県連代表による本選では、小泉が298票を獲得して圧勝。当時最大派閥の領袖(りょうしゅう)だった橋本は155票。推薦人集めに苦戦した麻生は31票を獲得、亀井は本選を辞退した。

合間を縫って、浅野や松本らが引き合わせる党内の中心、若手議員らと酒席を重ねている。

旧宮沢派(宏池会)の流れをくむ丹羽・古賀・谷垣、河野3派の再結集を目指す。

「大宏池会」構想にも理解を示す。麻生は、構想に前向きな丹羽・古賀派の丹羽雄哉(62)に毛筆でしたためた手紙を送り、「ぜひ二人きりで会いたい」と誘った。6月13日昼、国会近くの料理屋「飄亭」で、丹羽と向き合った麻生は3派結集に賛意を表し、「お互いの信頼関係が大事ですよ」と推薦人の協力を要請した。

麻生は、多忙な大臣日程のき残る道だ」

(敬称略)

麻生は安倍と決定的に対立する気はないが、政策の違いを表に出し始めた。6月22日旧宮沢派系3派中堅議員らの「アジア戦略研究会」に参加し、「中国とは、日中公益」を目標すべきだ」と主張。靖国神社を非宗教法人化してA級戦犯分祀の可能性を探るといって持論を展開した。

4日の講演では、都市と地方の格差拡大を憂い、地方の公共事業の必要性などを訴え、「小さくても温かい政府」を作ろう」と提唱した。小泉改革路線とやや距離を取り、地方経済の活性化を訴えることで、来年の参院選に神経をとがらせる参院議員会長・青木幹雄(71)らに秋波を送る意味合いもある。

麻生側近は、こう語る。「我々だってバカではない。世論調査の支持率が4.5%の人(麻生)が、40%の人(安倍)に勝てるわけがない。だが、それなり得票をすれば、安倍も麻生を無視できなくなる。「A体制」で次期政権でも働ける」

「A体制」で次期政権でも働ける」

「A体制」で次期政権でも働ける」

(敬称略)



# 「ポスト小泉」への道 ⑨



財務相・谷垣禎一(61)は18日夜、都内のスッポン料理屋で麻布高校の同窓生たちと恩師を囲んだ。

「生前、橋本さんは『麻布の卒業生から次々総裁候補が出てくる。頼もしい限りだ』とおっしゃっていたよ」

恩師が1日に他界した元首相・橋本太郎の思い出話を披露する。にぎやかに騒いでいた谷垣の表情が一瞬、しんみりとした。

「頑張れよ」

自民党を離党した先輩の元経済産業相・平沼赳夫(66)が声を掛けた。谷垣は心を決めたようにほほえみながら、静かに酒杯を空けた。

◆できない、できない

谷垣は、9月の総裁選出馬を近く正式表明する。谷垣を支える谷垣派の14人の「もどかしかった日々」にようやく一区切りがつく。2006年度予算成立を目前にした3月24日、谷垣

派の衆院議員・遠藤利明(56)は、人影まばらな衆院本会議場の閣僚席にいた谷垣を見つめ、さざめいた。

「総裁選を本気でやるなら、予算が上がら(成立)次第、大臣を辞めた方がいいですよ」

谷垣は腕組みをして考え込み、こう言った。

「辞任するわけにはいかないよ。行革推進法案も歳入歳出改革もある。財務相だからこそ、メッセージを発せらるる……」

しかし、歳入歳出改革は経済財政諮問会議や政府・与党の「財政・経済一体改革会議」が議論を主導し、谷垣にスポットライトは当たらない。

歳入歳出改革が大詰めを迎えた6月30日夜、谷垣派の厚生労働相・川崎二郎(58)、党政調副会長・園田博之(64)、元防衛長官・中谷元(48)、遠藤の4人が東京・六本木のフランス料理店に谷垣を呼び出した。川崎らは谷垣の好きなワインを勧めながら、「他の候補との違いを示すためにも、一刻も早く出馬表明すべきだ」と迫るが、谷垣は首を縦に振らない。

「7月に来年度予算の概算要求基準の決定がある。財務相の職責はきちんと全うしないと、けんかをすることも喉を切れない」

4人が「財政問題に限らず、争点になりそうなアジア外交や格差問題でも積極的に発言しろ」と促しても、煮え切らなかつた。

しびれを切らした川崎らは6日後の7月6日夜、東京・赤坂の日本料理店で、再び谷垣に早期の出馬宣言を求めた。3時間の議論の

末、谷垣も「皆さんの意見に従いましょう」と決意を述べた。出席者の一人は「よくやっか、という程度だけれど、やっと前向きになった」と胸をなで下ろした。

生来のきまじめさゆえに財務相の立場に縛られ、なかなか存在感を発揮できない谷垣。だが、それなりに目立つ努力もした。

5月の女性国会議員との会合では東大スキー山岳部出身の「ユー・テルを歌ってみせ、6月5日の『世界親からもらった顔にそ

小派閥とはいえず、ただ一人の派閥領袖だ。前身の小里グループ時代の04年に谷垣を派閥の首相候補と決めた。昨年10月の内閣改造で谷垣が留任し、適齢期の園田や遠沢が入閣できなかった時も「谷垣が活躍できるなら」と派閥は結束した。

00年末、「10年後に活躍が予想される政治家」を官僚100人に聞いた調査結果が、かたくなに拒んだ。 「親からもらった顔にそ

## 「愚直」谷垣氏 決起の夏



官僚アンケート 読売新聞が2000年12月に、30、40歳のキャリア官僚計1000人を対象に実施。「10年後に活躍が予想される政治家」の第1位は谷垣で、理由は「誠実でさわやか」「実務派」「政策通で安定感がある」などが挙げられた。2位は東京都知事・石原慎太郎、3位は経済企画庁長官だった額賀防衛長官。4か月後に首相になる小泉純一郎は5位だった。「21世紀に首相になってほしい政治家」でも谷垣は石原と同点の1位で、「2冠」を達成。3位以下には現経済財政相・与謝野馨、現民主党代表・小沢一郎、小泉が並んだ。安倍晋三、麻生太郎、福田康夫はランクインしていない。

◆冷や飯は覚悟 谷垣は、「ポスト小泉」の有力候補と目されてきた「麻生康三」の4人の中で、

点に大差をつけた。その時に官房副長官だった安倍晋三(51)は18位だった。そのころの谷垣は、元幹事長・加藤紘一(67)を必死で支えていた。

谷垣はこの5月、新人議員を東京・市ヶ谷の中国料理店に誘って懇談した際、「構造改革は(山崎拓、加藤、小泉の)YKK世代で終えるべきだ」と考えていた。だから、加藤さんに首相になってもらおうと努力してきた」と振り返った。

が、ふと気付くと、総裁選レースからYKK世代は去りつつある。それどころか「YKKの次世代」である自分を通過し、10歳も年下の安倍が国民世論の支持を集めている。

谷垣陣営の戦略は、小泉路線の継承者である安倍への対抗軸を作り、その旗頭

に谷垣が就くことだ。読売新聞が6月に実施した自民党員調査では、谷垣支持者の4割が小泉構造改革について「引き継ぐ必要はない」と答えた。「麻生康三」の支持者の中で、小泉路線の修正を求める割合は最も多かった。首相の靖国神社参拝に「反対」する人も6割を占め、安倍の支持者とは対照的だ。

谷垣も、政権公約のキーワードに「絆」の復活を掲げ、強者優先、効率優先の風潮の見直しを求める。だが、小泉内閣に4年近くも在任する谷垣は小泉亜流と見られがちだ。「反小泉」「非安倍」の人々の期待感は、これまで元官房長官・福田康夫(70)が吸収していたが、それを取り込めるかがどうか力ギとなる。

川崎や園田は「腹を固めろ」と谷垣に決起を促す。「おれたちは冷や飯食いは覚悟の上だ。総裁選で徹底的に戦ってあげば、『安倍政権』が失敗した時、その次」につながる。

21日、来年度予算の概算要求基準が閣議了解された。政治家・谷垣にとって、「勝負の夏」が始まる。

(敬称略)

# 「ポスト小泉」への道 10



まん」と謝った。これで場が和んだのだろう。9月の総裁選戦略に花が咲いた。

「麻生(太郎外相、65)さんと谷垣(禎一財務相、61)さんの一本化を考えたほうがいい」

「いや、決選投票に持ち込んで2位以下連合を組むためには、一本化しないほうが得策だ」

「森派だけが力を持つのは問題だ。安倍政権になっても何が起るか分からない。備えをしておこう」

10人の脳裏には、3派再結集を目指す「大宏池会構想」がある。

◆俺たちの時代のため 知らない同士の結婚より、因縁のある夫婦の復縁の方が難しいことがある。大宏池会構想もこの5年余、浮かんでは消えたが、今回は少し違う。流れを作ったのは、ケンカ別れした川崎たちより下の中堅・若手だ。

2月22日夜、東京・西麻布の中華料理店に3派の衆院当選4、6回生9人が集まった。丹羽・古賀派の前環境相・鈴木俊一(53)が切り出した。

「親父が生前、『もう一度、一緒になってほしい』

東京・赤坂の「小みや」は、自民党旧宮沢派(宏池会)のひびきの料亭だ。一日中降り続いた雨がやんだ19日夜、旧宮沢派の流れをくむ丹羽・古賀、谷垣、河野3派の衆院当選6、8回生の10人が、その引き戸をくぐった。

河野派の衆議議員・鈴木恒夫(65)の差配で、谷垣派(58)の正面に丹羽・古賀派の党団体系総局長・二田孝治(68)と前防衛相・村田吉隆(61)が座った。早稲いづものように「ワッ、ゲやおにぎり」が並んだ。川崎は元幹事長・加藤敏(67)が森内閣不信任決議案に賛成しようとした2000年11月の「加藤の乱」を振り返った。

「あの時もここでおにぎりを作って、もらったなあ。加藤派分裂前の最後の激論もここだった」

当時、加藤を支えて派閥分裂を招いた川崎は「おれが犯人みたいなもんだ。す



## 因縁の3派 将来へ布石

「数は力」の政界で生き残るためもある。合流すれば所属国会議員は70人を超え、森派(86人)、津島派(75人)に対抗する「第3極」ができる。

丹羽・古賀派の中堅議員は3派再結集を仕掛けた狙いをことう明かす。

「大きくなれば、ポストも得られ、新人も入ってくる。俺たちの時代」のごとを考え、今から力をつけようと思ってる。

◆乗り遅れるな 3派の幹部も「乗り遅れまい」と腰が浮いている。5月22日、丹羽・古賀派代表の元厚相・丹羽雄哉(62)は都内で開いた政治資金パーティで、「若手・中堅の動きを真摯に受け止める」と3派再結集に前向きに取組む考えをいち早く表明した。

丹羽は、大宏池会構想が本意にたいやみシマでやっつけた、と思ってる。

◆あちの派閥は総裁候補が揃わず、「草刈り場」にならねえ。大宏池会という目標があれば、閉塞感も紛れ、求心力が保てる。

母羽には、派内の中堅・若手の動きに同調することでも、もう一人の代表、元幹事長・古賀誠(65)との主導権争いに先手を打つ狙いもあった。

古賀は多くを語らない。だが、最近、靖国神社のA級戦犯分霊論を唱え、7月の訪中では日中間改善に強い意欲を示した。大宏池会の流れを見据え、小泉・安倍ラインとの対立軸を作って巻き返そうとしているという見方もある。

「ポスト小泉」を目指す麻生、谷垣にとって3派の「数」は魅力だが、一本化は容易ではない。総裁選で連携の可能性を醸成し、総裁選後に大宏池会実現を目指す。3派関係者の多くはそう語る。

6月15日、首相・小泉純一郎(64)は森派会長の前首相・森喜朗(69)と総裁選に向けた党内情勢を語り合い、「大宏池会なんて、できるかな」としきりと気にした。森は「どうやって小異を捨てて大同につけるか。なかなか難しいだろうな」と応じた。

他派閥には、大宏池会への警戒感がじわじわと広がっている。(敬称略)

と気にしていったんだよ」

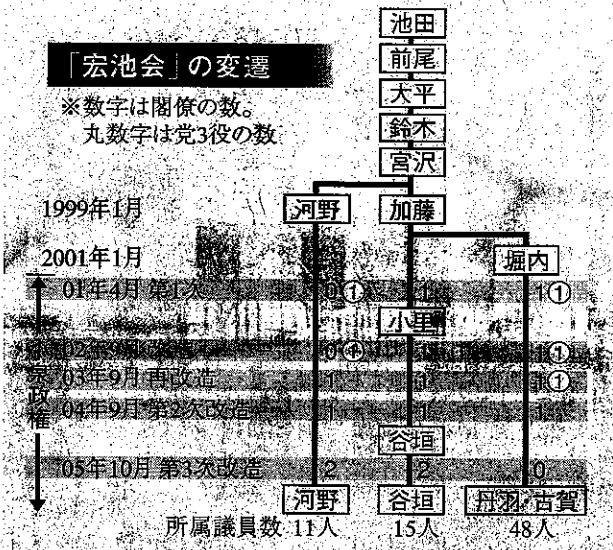
元首相の大平正芳の後を継いで宏池会を率いた元首相・鈴木善幸の遺言が出席者の心を動かした。鈴木らは月1回会合を重ね、参加人数や当選回数も広がった。3月には3派の中堅・若手による「アジア戦略研究会」が発足した。

7月4日、総裁選レースの先頭を走る官房長官・安倍晋三(51)が同研究会で講演した。終了後、出席者がらは「小泉首相の強硬なアジア外交を擁護する安倍さ

ん主張は、やはり宏池会と肌合いが違う。森派に首相を三代続けさせて日本は大丈夫だろうか」と言惑いの声も漏れた。

元首相・池田勇人が創設した宏池会は、軽武装・経済重視の元首相・吉田茂の路線を踏襲してきた。憲法改正や安全保障に積極的な元首相・鳩山一郎の路線を引き継ぎ、元首相・岸信介を源流とする清和政策研究会(森派)とは、政策志向が対立しがちだ。

同じ4日の夜、「小みや」



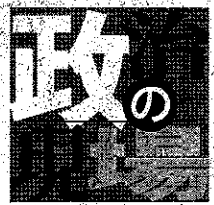
「ポスト小泉」を目指す麻生、谷垣にとって3派の「数」は魅力だが、一本化は容易ではない。総裁選で連携の可能性を醸成し、総裁選後に大宏池会実現を目指す。3派関係者の多くはそう語る。

6月15日、首相・小泉純一郎(64)は森派会長の前首相・森喜朗(69)と総裁選に向けた党内情勢を語り合い、「大宏池会なんて、できるかな」としきりと気にした。森は「どうやって小異を捨てて大同につけるか。なかなか難しいだろうな」と応じた。

他派閥には、大宏池会への警戒感がじわじわと広がっている。(敬称略)



# 「ポスト小泉」への道 Ⅱ



先週末、自民党元幹事長加藤紘一(67)は仕方なく、官房長官・安倍晋三(61)が20日に出版した著書「美しい国へ」(文春新書)を手にとった。

「うーん、ちょっと違うなあ。今ひとつ、ぐっど来ない。外交はもろもろ、内政もそこが違う……」

加藤は、盟友だった首相・小泉純一郎の靖国神社参拝や日中外交の停滞を厳しく批判し、9月の自民党総裁選で安倍の対抗馬として、官房長官・福田康夫(70)の擁立を目指してきた。

福田にも、テレビ番組や講演で出馬を促すメッセージを送った。5月には元文部科学相・河村建夫(63)を紹介し、2000年の「加藤の乱」以降ずっと疎遠だった前首相・森喜朗と会談し、関係修復に努めた。党内に先の大戦を考ふる歴史勉強会も発足させた。

しかし、福田は煮え切らず、21日、総裁選への不出馬表明に追い込まれた。加藤は23日、記者団に「ううめくしかなかった。残念です。もう消化試合になってしまふんじゃないでしょうか。(安倍さん)が独走態勢に入ってきたと思います」

◆「今回」はしない

加藤が「非安倍」にこだわるのは、安倍のアジア外交を懸念するからだ。代に待ったをかけた。もう一度、自らの活躍の場を確保したいという思惑がある。

加藤は6月20日のテレビ番組で自らの総裁選への出馬の意思を問われ、こんな本音、をのぞかせた。

「私自身は過去5年間にいろいろあり、傷も癒えていないので、今回は、そういうことはしません」

加藤の元側近の谷垣派議員は「次回がある」と思っているのだから、あんな人もキラキラ感が抜けた「いね」と苦笑した。

加藤は90年代、YKKの中心で首相に最も近い存在、脚光を浴びた。だが、00



## 未練断ち切れぬ「YKK」

YKK 1991年、自民党の竹下派支配打破や世代交代などを目指し、山崎拓(元、渡辺派)、加藤紘一(元、宮沢派)、小泉純一郎(元、安倍派)の3人で結成した。山崎と加藤は、99年総裁選に出馬したが、現職の小淵恵三に敗れた。2000年の「加藤の乱」の際、小泉は森派会長として2人を制する側に回った。だが、翌01年の総裁選で、小泉は山崎と加藤の後押しを受け、首相の座を射止めた。小泉は「YKKは、打算と友情の二重構造だ」と称した。

は明確にしたい。今年は60代最後の年、政治生活の総決算として全力を尽くしたい」と口火を切った。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。山崎は、代最後の年、政治生活の総決算として全力を尽くしたい」と口火を切った。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

中堅・若手が参加した。派内には「おれたちは会長のロボットじゃない。『反安倍』を貫いて、安倍政権でポストはくるのか」という会長批判もくすぶっていた。

7月に入って、山崎は再び揺れた。10日夜に参院議員会長・青木幹雄(72)に会った際、場合によっては、派内の不満分子を切る覚悟はある」と大見栄を切ったが、周囲には弱音も吐いた。

「安倍に一回やらせてみればいい。他の人を立てるにしても、今からじゃ、間に合わないだろう」

福田不出馬表明を受けた23日のテレビ番組で、山崎は「(自分の出馬は)8月15日を過ぎて同志と相談して決めた」と語り、なごみを残した。

この発言を聞いた山崎派幹部の言葉は辛辣だった。「会長が出馬するなら、支持せざるを得ないが、政治生命を懸ける覚悟でやっしてほしい。出ないなら、派閥を誰かの支持でまとめるのは無理。もう、そんな時代ではない」

(敬称略)

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。

山崎は、出馬意欲をさらさらと見せつけた。



# 「ポスト小泉」への道 12



24日夜、広島空港のVTRーム。講演を終えて東京行き最終便を待つ自民党津島派の防衛長官・額賀福志郎(62)は、派閥の後輩の前防衛副長官・今津寛(59)(衆院当選4回)が、決起を迫った。

「今は当選4回生以下が派閥の衆院議員の3分の2を占めています。若手は皆先生さえ(立候補の)腹を固めてくだされば、と思っ

ています」夕食を終え、お茶に手を伸ばしかけた額賀の動きが一瞬、止まった。だが、すぐに笑顔に戻り、いつものように話を始めた。

「若手がそんなに多くて頼もしいな。でも、講演で言った通り、防衛長官の仕事が忙しくて、政局に思いが至っていないんだ。まあ、状況をよく見ようや」

自民党総裁選は、元官房長官福田康夫(70)が21日

に不出馬を表明したことで、官房長官・安倍晋三(51)の「独走」感が強まっている。党内には消化試合にしてはだめだ」という声が広がり、森派に次ぐ党内第2派閥の津島派とそのプリンスとされる額賀の動向が注目されている。

◆勝ち馬を出す津島派は、元首相・田中角栄の田中派から竹下・小淵・橋本派と続いた名門派閥だ。かつては総裁または幹事長ポストを握り続け、

「田中・竹下派支配」とも称された。しかし、小泉政権の5年余りの幹事長ポストも取れずに地盤沈下が続く。中堅・若手からは「75人もいて総裁候補を出せないのでは、党内影響力も派内求心力も保てない」との主戦論が上がる。

5月25日夜、衆院当選1〜5回の6人が、都内の料理店で額賀を囲んだ。当選4回の天村秀章(46)が「ブライテン・カネボウを取ってくださった」と口火を切った。元首相・竹下登の弟で若手に人望がある竹下直(59)も、「心の準備はして下さい。額賀さんが手

を挙げればうちのムラは、割まをまりますよと告白。額賀は「若手は、若手を出さないとダメだ」と返した。田中角栄の「75人もいて総裁候補を出せないのでは、党内影響力も派内求心力も保てない」との主戦論が上がる。

とまるといって、津島派には03年総裁選のトラウマがある。現職首相が「ブライテン・カネボウを取ってくださった」と口火を切った。元首相・竹下登の弟で若手に人望がある竹下直(59)も、「心の準備はして下さい。額賀さんが手

を挙げればうちのムラは、割まをまりますよと告白。額賀は「若手は、若手を出さないとダメだ」と返した。田中角栄の「75人もいて総裁候補を出せないのでは、党内影響力も派内求心力も保てない」との主戦論が上がる。



## ポストに飢える派閥

田中・竹下派支配の自民党で、03年以降、総裁と幹事長を別の派閥から選出する傾向が顕著になり、派閥の権力が定着していった。田中派と、その後継者である竹下・小淵・橋本派は、鈴木内閣の二階堂幹事長就任(81年)から森内閣の野中幹事長退任(00年)までの19年間のうち、約16年間は総裁が幹事長の地位を握り続けた。その間は人事や資金、選挙の公認権を掌握し、新人議員を大量獲得して派閥を拡大した。橋本政権下の06年衆院選は21人、野中幹事長の下での00年衆院選は14人を獲得した。だが、小泉政権下の03年衆院選後は6人、05年衆院選後は5人しか獲得できなかった。

「田中・竹下派支配」の自民党で、03年以降、総裁と幹事長を別の派閥から選出する傾向が顕著になり、派閥の権力が定着していった。田中派と、その後継者である竹下・小淵・橋本派は、鈴木内閣の二階堂幹事長就任(81年)から森内閣の野中幹事長退任(00年)までの19年間のうち、約16年間は総裁が幹事長の地位を握り続けた。その間は人事や資金、選挙の公認権を掌握し、新人議員を大量獲得して派閥を拡大した。橋本政権下の06年衆院選は21人、野中幹事長の下での00年衆院選は14人を獲得した。だが、小泉政権下の03年衆院選後は6人、05年衆院選後は5人しか獲得できなかった。

「田中・竹下派支配」の自民党で、03年以降、総裁と幹事長を別の派閥から選出する傾向が顕著になり、派閥の権力が定着していった。田中派と、その後継者である竹下・小淵・橋本派は、鈴木内閣の二階堂幹事長就任(81年)から森内閣の野中幹事長退任(00年)までの19年間のうち、約16年間は総裁が幹事長の地位を握り続けた。その間は人事や資金、選挙の公認権を掌握し、新人議員を大量獲得して派閥を拡大した。橋本政権下の06年衆院選は21人、野中幹事長の下での00年衆院選は14人を獲得した。だが、小泉政権下の03年衆院選後は6人、05年衆院選後は5人しか獲得できなかった。

「田中・竹下派支配」の自民党で、03年以降、総裁と幹事長を別の派閥から選出する傾向が顕著になり、派閥の権力が定着していった。田中派と、その後継者である竹下・小淵・橋本派は、鈴木内閣の二階堂幹事長就任(81年)から森内閣の野中幹事長退任(00年)までの19年間のうち、約16年間は総裁が幹事長の地位を握り続けた。その間は人事や資金、選挙の公認権を掌握し、新人議員を大量獲得して派閥を拡大した。橋本政権下の06年衆院選は21人、野中幹事長の下での00年衆院選は14人を獲得した。だが、小泉政権下の03年衆院選後は6人、05年衆院選後は5人しか獲得できなかった。

# 「ポスト小泉」への道



きない」と断られた。父の衆院議長・河野洋平が率いる河野派(11人)では、麻生が出馬の意向を固めている。永田町では河野太郎は異端児扱いだ。

03年の総裁選の時、若手議員による「クーデター計画」があった。首相・小泉純一郎の独走の流れに二石を投じるため、若手が派閥横断で連携し、候補者と推薦人20人の計21人を集めようとした。河野もこの計画に参加し、通告のぎりぎりまで呼びかけたが、あと一人足らず、断念した。

今、当時のメンバーの大半は安倍を支持する。安倍支援の「再チャレンジ」支援議員連盟を仕掛けた総務副大臣・菅義偉(57)(衆院当選4回、丹羽・古賀派)が3年前を振り返る。

「あの時は、21人がそろった段階で誰が候補者に一番ふさわしいかを決めようとした。今回は最初から、安倍さんといっしょにふさわしい人物がいる」

河野は、都連会長の前国土交通相・石原伸晃(49)に掛け合ったが、「20人の推薦人を集められるものが立たない候補は呼ぶ」とはで



## 「3年前の若手」の思い

自民党青年局長 45歳以下の党所属国会議員から選ばれる。若手の「登竜門」といわれ、過去の局長には、竹下登、宇野宗佑、海部俊樹の3人の首相経験者がいる。安倍や麻生も局長経験者だ。青年局長は、全国約24万人の青年党員の研修、毎年一回、全国各地で同時刻に行う「全国一斉街頭行動」などを主催する。

渡辺は3年前は、「自分が総裁候補に」と思った。その時に掲げた政権構想「幻のマニフェスト」は、いまだにホームページに掲載している。

3年前に党青年局長だった前科学技術相・棚橋泰文(43)(衆院当選4回、津島派)は「あの、決起」が党改革を進めるきっかけになった」と自負する。総裁選後に青年局長が主張した「73歳定年制」が実現し、青年局長は総務会の常駐メンバーになった。

棚橋は、党改革を進めてくれたのは幹事長、幹事長代理を歴任した安倍だと理解している。ただ、安倍支援の先頭には立たない。「僕も当選回数を重ねたし、閣僚も経験した。派閥では事務局長だ。3年前とは立場が違う。別に表に出

るだけがいいことではない。今回は球拾い役だ」内閣府政務官・平井卓也(48)(衆院当選3回、丹羽・古賀派)も、再チャレンジ議員連盟に参加したが、3年前のような熱情に駆り立てられない。

「若さや人気で考えても安倍さんでいいと思うが、逆境になった時、心中する覚悟がある人はどれだけいるだろう」

党内では、青年局長の資格がある45歳以下の議員が83人もいる。現在の党青年局長・谷本龍哉(39)(衆院当選3回、森派)は、5月に党本部で開かれた青年局幹部の会議でこんな問題提起をした。

「総裁選を若手が存在感を示す場にしてほしい。勝ち負けは別に、今回も出せないものか」

その谷本も、誰を候補者にするか、と具体的な話になると、行き詰まる。「もちろん、次期首相は安倍さんでいいが、このままでは総裁選は盛り上がり

ない」

(敬称略)

5月11日、党本部での記者会見で出馬宣言した際に「今の年金制度でいいと思えば安倍晋三、変えなければと思えば河野太郎を選んだ」とアピールした。

国民年金は、保険料ではなく、7%分の消費税を財源として運営する。そうすれば、国民の年金未納問題も解決する……。粗削りな案だが、総裁選を「政策選

挙」にしたい、という思いを込めた。河野は、03年の総裁選後に仲間と「新世代総理を創る会」を結成し、世代交代を訴えてきた。しかし、どこか釈然としない。

党広報本部長代理・渡辺喜美(54)(衆院当選4回、無派閥)は、自分のホームページで、「お笑い自民食堂 小泉シェフの次はだれ?」と総裁選候補を料理に例えてちやかしている。

「僕も当選回数を重ねたし、閣僚も経験した。派閥では事務局長だ。3年前とは立場が違う。別に表に出るだけがいいことではない。今回は球拾い役だ」